

《第78回 日中文化講座》

日中友好協会 初代理事長

内山完造のふるさとを訪ねる



中国の著名な作家魯迅(左)と内山完造

岡山で日本と中国の友好交流に貢献した著名人は、岡崎嘉平太氏と内山完造氏があげられます。岡崎氏は経済人であったこともあつて、かなりの人たちが知っていますが、内山完造氏については今や知らない人たちも増えているようです。

そこで、内山氏のふるさと芳井町(現在は井原市に合併)を訪ね、彼の日中友好交流への貢献の軌跡をたどり、新たな認識と運動へのエネルギーをもらおうと、計画しました。

井原市には現在、芳井町民俗歴史資料館があり、そこを訪ねる計画です。

内山氏は後月郡芳井村の出身。京都での丁稚奉公から後に上海に行き、そこで開いた内山書店を足場にして、後に有名となった作家魯迅や郭沫若などへの支援や交流を深めました。その後日本の著名人、長谷川如是閑や横光利一、林芙美子、武者小路実篤、岩波茂雄などいく人も著名人への紹介や面識をつなぐ役割

日中友好協会
おひかやま
題字 原田 親
No. 487
2006/09/15
日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都台東区浅草橋3-2-3
日中ビル5F
電話 03(5829)2140(TEL)
FAX 03(5829)2141
http://www.jcfco.or.jp
E-mail: jcfco@jcfco.or.jp
郵便 10119-1-23176

日中友好協会
岡山支部
〒700-0034
岡山市北区下伊福
西町1-53 民主会館1F
TEL: FAX 0861 251-1806

日中友好協会
会報 第78号

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://jzhong.web.infoseek.co.jp
新・メールアドレス
jzhong86@hotmail.co.jp

を果たし、当時の極めて困難な日中の交流に大きな役割を果たしました。

戦後は、中国漫談と題して各地を講演して歩き、1949年には日中貿易促進会を結成。中華人民共和国の発足の年には、日中友好協会を設立。初代の理事長としての活躍はめざましいものがありました。

こうした彼の大きな業績に学ぶことは、現在ますます大きな役割を求められている日中友好運動に大きな励ましと示唆を与えてくれることでしょう。

井原市の出身者でもう一人の人森近運平の軌跡も訪ねます。森近は官憲に捕らえられ、大逆事件として冤罪により刑死した著名な人。

現在の歴史進展のなかで、もう一度振り返る必要のある人といえます。

この企画は、岡山人権問題研究所と共催します。

井原市周辺のすてきな秋の一日を味わいながらの一日旅行となりませう。ご参加を期待しています。

日本の印象？ 日本人はやさしい

山陽学園大学 翁瑞清



時間が経つのは早いものだ。私が日本に来て、もう二年半を超えた。

日本の印象といえば、岡山だ。岡山は住みやすい地方都市で、人々が優しい。私は日本人の家族と暮らしたことがある。それは田原お母さん、お父さん、純お姉ちゃん、武お兄ちゃん、ピンスケと言いかわいいうつ犬ちゃんの家だった。

武お兄ちゃんはずっと東京で働いて、あまり帰って来ない。純お姉ちゃんは七月に結婚した。皆があちこちして、あまり会えなくなりました。

田原お母さんは、いつも私を自分の娘のようにお世話してくれた。私は中国から来たので、寂しくて国の両親に会いたかった。両親が作ったお料理を、何度も思い出した。お母さんは私のことが分かっていたので、仕事を終えたら、私と一緒に話をしたり、日本の文化について教えてもらったりした。休みの日に、お母さんは時間を作って、私を連れて中華料理

店に行くこともあった。ある日学校から帰ってきたら、テーブルの上のおいしそうな餃子を見た。それはお母さんがわざわざ買ってきたものだ。中国風な餃子だった。その時、私は何も言わず、つい感動して涙が出てしまった。田原さんは私の本当の親ではないが、親のように私をよく理解していた。

「どうして私をこんなに優しく支えるの、お母さん？」ある夜テレビを見ながら、私はそんな質問をした。瑞清は私の娘じゃない？これは私たちの縁だわ。」お母さんはにこにこした。

瑞清「これはお母さんが今まで発音した一番正しい中国語だ。お母さんは国の家族、親友たちのように、私の名前を中国語で呼ぶと、私はいつも心から暖かさが溢れてきた。本当にありがとう、お母さん！」

日本で、私は田原お母さんのような人間によく出会った。迷子になった時、知らない日本人が道を詳しく教えてくれた。トラブルに遭った時、日本人の友人は熱心に助けてくれた……日本に来る前、岡山を選んだのはほんとによかったと、ありがたい気持ちになった。

今、私は一人暮らしになっても、一階に住んでいる日本人の方は優しさを伝えてきた。また、田原お母さんとよく電話やメールで連絡している。

仕事が大変だよ」瑞清、お元気？」「今週の土曜日に会いましょう」勉強頑張つてねと、私を励ましてくれる。遥かな国からきた私たちと友人になれるのは、縁。不思議というよりも、日

本人としての優しさがあるからだと思ふ。日中両国を仲良くしようという願いは、政治の努力だけではなく、民間からの力をもっと強めて不可欠なものだろう。私は普通の留学生、平凡な民間人として、日中関係が本当によくなるように、精一杯頑張りたいと思つている。

今日、中国を深く理解し、中国人に対する偏見を持たない日本人の方々は、ますます増えてきたでしょう。

片手では拍手の音を出すことはできない。だから、皆が手を出しあひましよう。また、日中友好協会のような組織は、大変必要だと思う。

いつまでも、どんな日本の印象を持つのかと聞かれたら、私は田原さん、周りの日本人の友達の笑顔を思い出して、日本の印象？日本人は優しいと答える。

次回の新聞送付作業は
9月21日(木) 午後1時半
民主会館2階で行ないます。
前回お手伝いくださった方です

林田山和
小真内和
真澤内和
竹内井
竹井部
坪井部
服部

第19回 岡山きりえ展

高知 竹林寺五重塔 大塚 正太郎

●と き 2006年 9月26日(火) ▶ 10月1日(日)
AM10:00~PM6:00 (初日はPM1:00より 最終日はPM4:00まで)

●ところ 西川アイプラザ4階ギャラリー

主催 岡山きりえの会
協賛 日中友好協会岡山支部
協賛 日本きりえ協会
協賛 岡山市教育委員会

特集

孤児問題を訴える

全国教育研究集会で

岡山大安寺高校

青木 康嘉

2006年度全国教育研究集会があった。孤児裁判の原告団長高杉久治さんといっしょに参加した。8月17日に上京して、新宿に宿泊した。翌日、埼京線と高崎線に乗り換えて上尾市のコミュニティーハウスに着くまでに1時間半かかった。

私たちの発表は、15時半すぎからだった。私が『緑の大地』の説明をパワーポイントで写真を利用しながら、昨年の旅の概要を話した。その後、高杉久治さんが「日本語」で訴えた。

七虎力開拓団で生まれて四才の時、ソ連軍の襲撃を受けて残留孤児になったこと、養父母に育てられた中国の暮らし、祖国日本への想い、父と涙の再会、日本の帰国の話をされた。そして、現在の中国残留日本人孤児の日本の置かれている現状や裁判へ訴えた理由を話して、会場百名近くの人々に大きな感動を与えた。

高杉さんが孤児になった襲撃の場所(張家屯)は、中川村開拓団付近であった。翌日、その中川村開拓団は、埼玉県秩父市の中川村の出身者で構成されていたことを教えてもらい、その中川村開拓団研究レポートをいただいた。

私たちは帰りの日、新宿住友ビル35階にある平和祈念展示資料館へ寄って見学した。海外から引き揚げ特別展をしていた。高杉久治さんが、食い入るように展示を見ていたのが印象に残った。

高杉久治さんは、この二年半の間裁判の原告団長になって、多くの日本人と交流する中で、また日本語教室の成果の中で、本場に「日本語」で話すことがうまくなったなど感じた。

埼玉の全国教育研究集会に参加して

孤児訴訟岡山原告団長 高杉久治

八月十七日から十九日埼玉県上尾市で開かれた全国研究集会へ参加した。青木先生の出た会議の報告は『緑の大地』——岡山の中国残留日本人孤児の過去・現在・未来——であった。青木先生と私はいっしょにこの分科会に出た。

ここで私は、岡山県高等学校教職員組合と青木先生に厚くお礼を言いたい。

私たちの参加したのは、第十九分科会であった。この会のテーマは「平和と国際連帯の教育」であった。

十八日の午後、青木先生は録画「緑の大地」の放映をしながら、発表と報告をした。その後、五分ほどの時間、私の個人の経歴と孤児訴訟に関連した状況を紹介した。

私は、初めての教育研究集会への参加であったが、日本が教育をとても重視していることを強く感じた。会議の規模を大きく、参加者は全国の教育関連の人たちであった。また、教員の科目も多く、二十八もの分科会



藤田公民館「実りの教室」

公民館で「孤児」問題の学習会

小林重治

八月二十五日、岡山市藤田公民館の藤田みのり教室(六十歳以上の高齢者が対象で、中国残留日本人孤児の問いかけるもの)と題して話をしました。当日は五十人を超える人が参加し、熱心に聞いてくれました。

私は、はじめに「孤児」のみなさんの願いが「残留孤児は日本人(残留孤児は日本人である)」ことを強調しました。そして、孤児が生まれた原因、どんな人々が「孤児」になったのかなど、その歴史を竜爪開拓団の歩みを中心に話しました。

話の中で私が、「孤児」のみなさんが現在、日本語が十分話せないこと一番悲しく思っているのは、どんなことだと思えますかと問い、それは、盆や正月などに日本で育った孫と集

しく会話できないことですよと答えると、同年代の人々だけに頷いておられました。

なお、この教室の様子は、岡山市日新聞が取材し「残留孤児の苦悩今なお「真の日中友好を」と社会面で大きく報道されました。

参加者の感想文の一部を紹介し、戦争は、絶対反対。今日のお話で身近に感じました。中国に残された人々は気の毒です。私も開拓団におりました。今更振り返ることは、苦しい以外何もありません。特に戦時死亡宣告で大変迷惑しました。戦争は終わっていない。私たちは子・孫に悪い事(戦争のツケ)を残さないようにしたい

9月2日に開講

倉敷・日本語教室

講師募集中!

倉敷市粒江団地に住む中国帰国者を対象にした日本語教室が、次のような日程と内容で始まりました。

木曜日 14時~16時
土曜日 10時~12時

場所は、孤児訴訟原告の湯口さん宅。テキストはみんなの日本語。漢字能力検定問題集それに独自教材などを併用していく。当面土曜日は、漢字能力検定問題集などを使用することにしました。

9月2日(土)、湯口さん宅に、講師三人、受講者四人が集まり、それぞれ自己紹介後に、上級、初級の二組に分かれて楽しく学習しました。



倉敷日本語教室

講師募集中 倉敷教室連絡先
日中友好協会 倉敷支部
(宮地義男方)
電話・086-446-2711

短信

*多彩な活動 つづく

《行事・これから》

◎ 9月13日

第12回孤児裁判口頭弁論

岡山地裁 12時45分集合

◎ 9月17日

孤児訴訟長岡の原告と弁護団の交流会

長岡県営住宅 集合所 13時

◎ 9月18日(月・祭)

満州事変(柳条湖事件)75周年 宣伝ビラ配り

天満屋本店 アリスの広場前

13時半から

総社日本語教室 交流会

総社鬼の城方面へ

◎ 9月29日~10月2日

第19回岡山きりえ展

西川アイプラザ4階ギャラリー

幸町

◎ 10月1日(日)

内山完造のふるさとを訪ねる

(第78回文化講座)

日帰り旅行 集合8時45分

岡山県民会館

参加費500円(交通費のみ)

◎ 10月22日(日)

孤児問題を訴える市民集会

講演と座談、孤児たちの歌声

山陽新聞社さん太 ホール

参加費無料

◎ 11月25日(土)

岡山・日本語教室開講2周年記念集会(長岡県住 集合所)

◎ 11月25日(土)

岡山・日本語教室開講2周年記念集会(長岡県住 集合所)